小規模多機能型居宅介護「サービス評価」　総括表

法人名	社会福祉法人 京都福祉サービス協会	代表者	理事長 宮路博
事業所名	小規模多機能型居宅介護事業所桂坂	所長	浦川良太郎

法人・事業所の特徴	「くらしに笑顔と安心を」の理念のもとに、京都市に多種多様な介護事業所を持つ法人である。 　事業所は桂坂学区の福祉ゾーンに位置し、洛西ふれあいの里保養研修センターが担ってきた地域コミュニティの拠点としての役割を踏まえ、高齢者の居場所づくりの推進や、地域住民同士の交流の場の提供など、地域で高齢者を支えるネットワークの構築を進めていく。また、地域との関係性を大切にしながら、利用される方がいつまでも住み慣れた地域で暮らし続けられるように支援している。

項　　目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する 取組み・結果	意見	今回の改善計画
A．事業所自己評価の確認	別紙のとおり、抽出した課題について定めた目標に取り組みます。 ※別紙参照	9つの取り組み結果、できている点、できていない点を参照願います。	・スタッフ全員の意見が良くわかります。 ・特に地域との関りについて、目標は今までとそんなに大差がないが、年を追うごとに「できていない」と感じる職員が減っている。例えば、地域の情報やかかわりについて意識が浸透してきているからだと感じます。	※別紙参照
B．事業所のしつらえ・環境	・感染症対策を継続しつつ、四季を感じられる設え、飾りつけを利用者と共に行います。	事業所内の飾りつけなどは、ご利用者の参加度も併せて、過去においても高水準で行う事が出来た。 掃除など効率よく、また職員全体で意識が出来るよう取り組みを始める。	・なかなかふらっと立ち寄る立地でもないため、入りやすいか入りにくいかはあまり関係ないかも。・隣の公園と建物が馴染みすぎて、いまだに「そんな施設あった？」という話を聞きます。 ・一方で、地域の方もフラッと入ってこられ、自販機でいつもジュースを買われる方もおられます。・玄関は落ち着いた雰囲気を出すために、あえて明るい電気にしていません。・クリスマスツリーの飾りがとてもいい雰囲気です。	事業所外構部の花壇の整備、清掃を行い、地域にとって親しみやすい事業所となるよう取り組みを行う。事業所内の作品掲示について担当者を定め、ご利用者と共に計画的に行ってゆく。
C．事業所と地域のかかわり	・感染状況に応じて交流スペースの貸し出しを拡大していきます。 ・令和4年度同様、オータムフェスタへの参加により地域との関りを継続します。	地域交流スペースはコロナ禍前の基準で運営を再開する事が出来た。より利用して貰うためのアプローチを行ってゆく。オータムフェスタについては今年度もバンド演奏、作品出店で参加できた。	・訪問介護に団地に伺った際も、その方だけではなく、その住民とも挨拶ができています。・介護に困って事業所に電話をしてこられる方もおられます。地域包括と連携して対応しています。 ・オータムフェスタのほか、運動会の参列、地域ケア会議等への参加ができていると思います。・困った時にはいつも電話して、頼りにしています。	地域との関わりがあった事例を毎月報告する機会を継続さる。また、SNS による情報発信を継続する事でより開かれた運営を目指す。
D．地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	・地域における相談窓口としての役割を職員一人ひとりが認識できるよう毎月毎に事例を取り上げ、検討を行ってゆきます。	見える化シートにて、毎月整理が行われ、職員個々の取り組みを共有する事が出来た。	・小規模多機能の性質上、施設に閉じ込める事はないでしょう。 ・地域ケア会議は、個別地域ケア会議も行えています。 ・地域の高齢者に対する相談にも迅速に関わってくださっていると思います。 ・オータムフェスタに参加される際に、丁寧に利用者対応しているところを見ると、本当に普段から丁寧に対応しているというのがわかります。	Covid-19 の 5 類移行に伴い、これまで途絶えていた、外部サービスや、ボランティア受け入れを再開し、ご利用者と地域の双方の活動を支援してゆく。
E．運営推進会議を活かした取組み	・運営推進会議にご家族やご利用者が参加しやすいように、案内を工夫します。	運営推進へのご家族の参加について、継続した形で拡充を図る事が出来なかった。中止になったご利用者家族会とコラボする形での開催を検討する。	・運営推進会議に新たに家族が参加されることがほとんどない。誰かが代表で参加していると、お任せになってしまうのではないか。 ・運営推進会議の議題は見にくい事はありません。 ・小規模多機能は半分が単身で、家族や本人の会議参加が難しいかもしれませんが、せめて小規模の家族も1名参加していただけたら。	運営推進会議の家族及び本人への案内を、分かりやすい手紙等を付け、より積極的に行う。昨年行えなかった家族懇談会を開催する。
F．事業所の防災・災害対策	・法人が作成した BCP の骨子をベースに桂坂版を作成し、災害対策委員を任命して訓練を実施します。 ・福祉ゾーン施設の災害対策について他施設と共により深めていきます。	BCP の作成、運用を開始させている。 各委員会の習熟を図ってゆく。 西総合支援学校の改修後を目途に、再度連携について確認を行ってゆく。	・地域特性上、住民との訓練よりも、福祉ゾーンでの訓練が必要であり、毎年実施してますね。 ・建物の耐震強度と避難方法、BCP(事業継続計画)の中身の説明をうけました。 ・コロナ禍により福祉ゾーンの合同訓練が見送られていますが、地域との連携という点では、まずは福祉ゾーンでの連携が重要ですね。 ・小規模多機能の場合、各学区に住んでいる利用者の支援が難しですね。 ・実際の災害時には事業規模的に頼りになるかは分からない。むしろ福祉ゾーンで連携し、助けてもらうことのほうが多いのでは。	事業所が属する福祉ゾーンでの各事業所間の連携を再構築する。 法人で取り組む能登半島地震への支援から、災害対策についてのフィードバックを得て、BCP に盛り込んでゆく。

小規模多機能型居宅介護事業所桂坂

令和５年度事業所評価におけるＡ項目（自己評価）に基づく

令和６年度　事業所目標

令和６年２月12日作成

1	初期支援（はじめのかかわり）	家族とも十分なコミュニケーションをとる為に、本人の情報を整理して伝えられるように準備をしておく。毎週のカンファレンス時期に合わない場合でも、新規利用のある場合にはカンファレンスを行えるようにする。
2	「～したい」の実現 （自己実現の尊重）	個別性の高い目標について、担当職員が計画的に取り組むことができるよう、スケジュールを立てていく。
3	日常生活の支援	過去最高となる登録者数となるご利用者の支援が円滑に行えるよう、訪問、送迎業務及び事業所内の業務について改善と効率化を図る。
4	地域での暮らしの支援	ご本人と共に支えるチームとして、地域やご家族とも協働できるよう、関係作りを進める。具体的な対応を行ったケースをまとめ、整理する事でご本人を中心としたエコマップの作成に取り組む。
5	多機能性ある柔軟な支援	事業所で支援を抱え込まず、ご家族の支援や地域の社会資源を意識して支援の輪を拡大させてゆく事ができるよう、働きかける。
6	連携・協働	地域での催しや活動が、段階的に以前の状態を取り戻しつつあるなか、感染予防等の対策をおこないつつ、参加の機会を増やしてゆく。
7	運営	ケアの質を落とすことなく安定した運営を行うため、業務からのムリムダを省く取り組みを継続する。
8	質を向上するための取組み	定例での研修や勉強会の参加機会については問題なく目標を達成できる水準にある。そのうえで研修情報のアナウンスだけではなく、職員一人一人の目標を共有することで、個々のスキルアップの為の研修への参加の充実を目指す。
9	人権・プライバシー	ご利用者の個人情報について不適切な取り扱いとならないように、事業所内でのルールを策定し周知を強化するとともに、報告や相談の内容が周囲に聞こえる事が無い様に普段のケアの場面においても意識の向上に努める。